観光パートナー都市協定締結式

8月23日(月)、市は北海道・倶知安町と観光パートナー都市協定を締結しました。

倶知安町は、外国人スキーヤーでにぎわう長期滞在型の国際的なスキーリゾート地です。

これからは、それぞれの観光資源を生かして支援・協力し、または共同で外国人をはじめとする観光客の誘客活動を行っていきます。

足尾銅山発見400年記念ウオーク

8月29日(日)、足尾銅山発見400年記念事業の一つである足尾銅山発見400年記念ウオークが、足尾地域で開催されました。

かつてガソリンカーと呼ばれたトロッコ列車が行き来していたトロ道を中心に産業遺産を巡るツアーで、参加した方々はガイドの方の説明を熱心に聞きながら、東洋一といわれた足尾銅山の街なかを探索しました。真夏を思わせる暑い日でしたが、途中の足尾駅貨物ホーム横、キハ30の車中で抗夫弁当を食べたり、足尾歴史館のガソリンカーに乗ったりするなど、貴重な体験を楽しんでいました。

ご夫婦で参加された塩津さん(茨城県)は、「ガイドの方の説明で、当時の様子を知り、また当時を想像しながら歴史の残る街を歩くことができ、感慨深かったです」と話してくれました。

おかみの杜演奏会

8月21日(土)・22日(日)、大室にあるたかお神社でおかみの杜演奏会が開催されました。

21日には「和久文子と素敵な仲間たち」と題して、琴を中心とした演奏会が行われました。会場が山の中にあるため、琴と尺八、唄などが奏でる音は、自然に反響。訪れた人たちはここでしか聴くことができない音を存分に堪能していました。

オオハンゴンソウ等外来植物除去作戦

8月22日(日)、湯元スキー場周辺でオオハンゴンソウ等外来植物除去作戦が実施されました。

奥日光では、オオハンゴンソウなどの外来植物の繁殖により、ホザキシモツケやヤナギランなどの貴重な在来植物の消滅が心配されており、昭和51年度から毎年たくさんのボランティアの協力により、除去活動が実施されています。

この日は、暑い日差しが照りつける中、約250人のボランティアが早朝から集まり、黄色の花を咲かせているオオハンゴンソウをクワやスコップで根から抜き取る作業を行いました。

5年前から参加している横田さんご夫妻は、「去年に比べたら随分減っていますね。昔から仕事やスキーで湯元には関わりがあり、恩返しができればと思い参加しています」と話してくれました。

日光ツーデーウオーク

9月4日(土)・5日(日)の2日間、日光総合会館をスタート・ゴールとする日光ツーデーウオークが開催されました。日光の社寺が世界遺産に登録されたことを記念して始まった大会も11回を数え、日光の初秋のイベントとしてすっかり定着しました。

4日の稲荷川・世界遺産コースには20km・10km・5kmの3部門に1,426名が、また5日の大谷川・杉並木コースには20km・13km・5kmの3部門に1,004名が参加。厳しい暑さの中、参加者それぞれが、自分のペースで社寺や杉並木を巡りました。

大谷川・杉並木コースに参加した足立区の男性は、「歴史を感じられる並木道を歩くことができて感激です。杉の木が弱っているそうですが、守り続けて欲しいです」と話してくれました。

かわじ屋台夜祭

8月28(土)、川治運動公園で夏の夜を締めくくる「かわじ屋台夜祭」が開催されました。

多くのたいまつがたかれた幻想的な雰囲気の中、串焼きや餃子、かき氷、ビール、カクテルなどを売る屋台が並びました。例年、雨に降られてしまうことが多いこのお祭りですが、今年は良い天気に恵まれ、浴衣姿の観光客や子どもたちでにぎわいました。

アトラクションでは、今回で10回目を迎えたことを記念に、シカゴ在住のブルースギタリスト菊田俊介氏の演奏が行われ、そのほかにも、まつり囃子やジャズのライブなどが行われました。

締めくくりは、恒例の沖縄県人会「兄弟会」によるエイサー。沖縄でお盆の時期に踊られる伝統的な踊りで、会場全体が盛り上がりました。

湯殿山神社祭礼

夏の恒例行事である湯殿山神社祭礼が8月17日(火)、湯西川温泉で行われました。

天狗の面をつけた猿田彦を先頭にした行列が、温泉街を通って湯殿山神社へと向かい、神社到着後には、湯西川上地区と湯西川下地区の両獅子舞が奉納されました。

次々に披露される獅子舞の舞に、集まった人たちからは、大きな拍手と歓声が上がっていました。

二十三夜祭

8月23日(月)、追分地蔵尊で二十三夜祭が行われました。

このお祭は、月を拝む月待ちの信仰の一つで、安産や子育てなどを祈願します。会場では、地蔵に線香をあげたり、用意された色紙に子どもの手形を残したりする姿が見られました。また、例幣使街道沿いには多くの出店が並び、彫刻屋台からのがらまきなども行われ、大勢の人でにぎわいました。